

ま え が き

日本橋・京橋地区（現中央区）は、徳川家康の江戸入り後、江戸湊の沼地や干潟を埋め立ててつくられ、商業の中心地として発展してきた。そこには、全国から商人、職人などあらゆる職業の町人たちが集まってきた。さらに江戸という都市の発展とともに、彼等は事業拡大のため奉公人その他の新たな労働力を必要としたに違いない。

これらの労働力は、職を求めて江戸に集まったいわゆる流民集団からも集められたであろうが、地縁・人縁にたよったものも少なくないと思われる。

今回われわれは、上記の前提にたって江戸末期における日本橋・京橋地区（現中央区）のなかで、地縁・人縁による集団を形成していた地区が存在したかどうかを調査研究してみようと試みた。

それにはいくつかの方法があるが、当時彼等が守護神とした神社の由来調査もひとつの手がかりになるのではないかと考え、日本橋・京橋地区（現中央区）に現存する全神社について、個々にその由来を中心に実地調査した。

この調査に限れば、出身地から守護神を背負ってきたという事例はまれであり、ルーツ解明の手がかりには至らなかった。

しかし、日本橋・京橋地区（現中央区）の神社を実地に総当りした資料は未だないようであるので、各神社の所在地・祭神・由来等を記録として残すこととした。

この調査は、当財団の杉山昭造、下元和夫の両研究員が担当した。

昭和62年4月

財団法人 第一住宅建設協会

常務理事 徳田敦司